

令和 5 年度病害虫発生予察予報第 11 号（令和 6 年 2 月）

令和 6 年 2 月 5 日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央、西)、やや多(中西)</u> <u>多(中西)、やや多(西)</u> 、 <u>多(中央)</u> <u>やや多(中西、西)</u> 、 <u>やや少(中央)</u> <u>多(県下全域)</u> <u>多(中央、中西)、やや多(西)</u> <u>やや多(中央、中西)</u> 、 <u>やや少(西)</u> <u>多(中央、西)、やや多(中西)</u>
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東、中央)</u> 、 <u>少(西)</u> <u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>多(西)</u> 、 <u>多(中央)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>やや少(東)</u> 、 <u>少(中央、西)</u> <u>やや多(西)</u> 、 <u>多(中央)</u> 、 <u>やや少(東)</u>
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東、中央)</u> 、 <u>やや少(中西)</u> <u>やや多(東、中央)</u> 、 <u>多(中央)</u> 、 <u>やや少(東、中西)</u> <u>多(県下全域)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>やや少(東、中西)</u> 多(東、中央)、少(中西) 多(県下全域)
促成トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u>

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県 東 部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県 西 部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台 2 月 1 日発表)

2 月 3 日から 3 月 2 日までの天候見通し

<予想される向こう 1 か月の天候>

気温は、寒気の影響を受けにくいため高いでしょう。低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 60% です。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 70% です。2 週目は、平年並の確率 50% です。3 ～ 4 週目は、平年並、高い確率とも 40% です。

<向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 か月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	20	30	50	
		日照時間	40		40	20

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	20	70	
2 週目		30		50	20
3 ～ 4 週目		20	40		40

<予報の対象期間>

1 か月：2 月 3 日(土)～3 月 2 日(土)

1 週目：2 月 3 日(土)～2 月 9 日(金)

2 週目：2 月 10 日(土)～2 月 16 日(金)

3 ～ 4 週目：2 月 17 日(土)～3 月 1 日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

(1) 1 月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発病程度は中央部、西部で平年よりも高く、中西部では平年並であった。

(2) 2 月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(西部)、平年並（中央部）

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりやや多く、西部で平年並、中央部でやや少なかった。発病程度は西部で平年より高く、中西部で平年並、中央部でやや低かった。
- (2) 2月の気温は平年より高いと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) つる枯病

予 想 発生量：やや多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部と西部で平年並、中央部では平年よりも少なかった。発病程度は、県中西部で平年並、その他の地域は平年よりも低かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病部は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で新たな発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部と中西部でやや多かった。発病程度は西部で平年よりも高く、その他の地域では平年並であった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は県下全域で確認されている。例年、2月以降ミナミキイロアザミウマの密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を、低密度時に徹底して実施する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

5) 退緑黄化病

予 想 発生量：多(中央部、中西部)、やや多(西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年よりも多く、西部で平年並であった。発病程度は中央部と中西部で平年よりも高く、西部で平年並であった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるタバココナジラミの発生が県下全域で確認されて

いることから、2月以降も既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を、低密度時に徹底して実施する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

6) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中央部、中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年並、西部で平年より少なかった。発生程度は、西部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 青色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。既発ほ場では特に防除を徹底する。
- (2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

7) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部でやや多く、中西部で平年並であった。発生程度は、中西部と西部で平年並、中央部で平年より低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 黄色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。
- (2) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

2 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(東部、中央部)、少(西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は両地域とも平年よりも多く、発病程度は東部で平年並、中央部では平年より低かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 低温(20℃内外)、多湿条件で発病するので、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 防除薬剤には耐性菌を生じやすいものが多いので、同系統の薬剤を連用しない。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、東部では少なかった。発病程度は中央部と西部で平年よりも高く、東部では低かった。
- (2) 2月の気温は平年より高いと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや少なく、東部で少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、東部でやや低く、中央部で低かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) すすかび病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は東部と西部で平年よりもやや低く、中央部で低かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するので、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年並、発生程度は平年より低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんど

のは場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(西部)、平年並(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、東部で平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(東部、中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部でやや多く、中西部で少なかった。発病程度は東部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 2月の気温は平年より高いと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：やや多(東部、中央部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部と中央部で平年並、中西部で平年よりやや少なかった。発生程度は、中西部で平年より高く、中央部でやや低く、東部で低かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域県で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年より多く、東部と中西部で少なかった。発病程度は、中央部で平年より高く、東部と中西部で低かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。
- (2) 低温期なので野外からの侵入はなく、例年発生が減少する時期ではあるが、2月の気温は平年より高いと予想されているため、ハウス内の残存虫は増殖しやすくなると考えられることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるため、防除薬剤の選定に注意する。
- (2) 卵塊やふ化後の幼虫集団を見つけたら、直ちに処分する。

5)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並(東部、中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年並であった。発生程度は中央部で平年より高く、東部でやや低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんどのほ場でカブリダニ類等の天敵類が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

6)タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も発生面積は平年並で、発生程度は平年より低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんど

のは場で天敵類が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 低温(20℃内外)、多湿条件で発病するので、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 防除薬剤には耐性菌を生じやすいものが多いので、同系統の薬剤を連用しない。

2) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年よりやや多く、発病程度は高かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 品種間で本病に対する抵抗性の差があるので、抵抗性品種の導入について検討する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年並、発病程度は平年より高かった。
- (2) 2月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、新たな発生は確認されていないが、発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2) 例年、日照時間の増加とともに本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度が高まる時期であることに加え、潜在感染株で発病が見られ始める時期でもあることから、既発ほ場やタバココナジラミの発生ほ場では発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2) 2月の気温は平年より高いと予想されているため、本虫の活動も活発になると考えられることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると予想される。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 黄色粘着トラップの設置等により、本虫の早期発見、早期防除に努める。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)